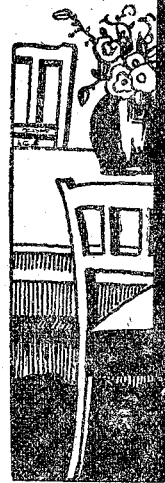


研究



戰時下に於ける英國の運輸對策

多田基

○
戰時下の英國は、米國の武器貸與法に依り不十分ながらも、武器其の他軍需資材の供給を得てゐると、獨ソ開戦に依つて獨逸の主たる攻撃目標を避けて稍々少康状態にあるが、英國の經濟戰線には尙幾多の困難が横はつてゐるので、これの除去に腐心してゐる。而して、これ等困難の内の一は交通問題である。英國の交通組織は、現在の國防的交通需要に應じ切れず、これがため軍需的工業生産に支障

を與へてゐる。この原因は、要するに各交通機關が有機的單一體として組織されず、各交通機關が思ひ／＼の活動をなして自己の運賃収入の増大を圖つてゐるところにある。英國には各交通機關を管理せる交通省が儼存してゐるが、交通省はたゞ政治家の養成機關と化し、交通問題の解決に對する態度は甚だ消極的で今迄のところその場その場をお茶を濁してゐると言つた風である。

こゝに抄譯せるものは、エコノミスト誌に掲載された小

論文であるが、我が國の運輸狀況を考へるとき英國の事情はたゞ他事としてのみ觀ることが出來ないので讀者に披露することとした。但し以下述べんとする運輸問題の解決策は同誌の論者の私見であることに注意せられたい。

○

英國に於ける物資の運輸機關は大別して三種あると云ふことが出来る。それは鐵道、道路及沿岸航路である。この他に一つ加へるとすれば、それは運河であるが前三者に比較すれば稍々劣つてゐる。今次大戰前に於いてさへ、これ等の交通機關は個別的に觀ても又全體的に觀ても、著しく強度に利用せられてゐたことは事實であるが、これ等の交通機關の機能を單一組織の下に運営すると云ふ方法は全然講じられてゐなかつた。三種の交通機關は、今次の難局に直面してもそれぞれの實績から判断すれば、大活動を續けてゐる。併し乍ら、全體としての運輸は能率的であるとは云へない。各交通機關は支障が生ずる毎に、これの解決を計るため多大の努力を拂つてはゐるが、依然として運輸を

統一的なものとして考へないで三種の獨立的單位として考へてゐる。

その結果、三大部門（鐵道、道路及沿岸航路）と一小部門（運河）を含む單一組織で運輸を營んだ場合に見られる如き能率を以つて物資の輸送が行へないと云ふことになる。軍需工場は均衡のとれた生産實績を維持するのに適時に原料を得られないことが屢々ある。軍需製品は豫定表によつて目的地に輸送されず、港で陸揚げされた積荷は、迅速に分散されないでゐる。南部英國に於ける石炭消費者が、炭坑には石炭が豊富にあるが、不足に悩んでゐる時、彼等に適當量の石炭が配給されないでゐる。事實、現在の運輸狀況は軍需品生産の一大障害となりつゝある状態である。英國政府は緊急事業に優先權を與へんと努力を拂つてはゐるが、總べての資材が運輸の遲滞を蒙つてゐる結果、その努力は水泡に歸してゐる。従つて、戰爭の勝敗は、獨逸軍よりはむしろ英國の運輸狀況に支配されると言つても過言ではなからう。

○ 然らば、この對策には如何なるものがあるだらうか。先づ第一に、運輸問題は全體として即ち一丸として觀なければならぬ。而して英國の支配下にある全交通機關は、各種交通部門を包含する單一組織として取扱はるべきである。大體に於いて、運輸しなければならぬ物資の量及その緩急の度合は、豫め評價することが出来るし、同様に大ざつばではあるが、各種交通機關の能力を評價することが出来る。運輸貨物を最も有利に分散するには、鐵道運輸、道路運輸又は船舶運輸とか云ふ如くに運輸形態を問題とせず、運輸能力と云ふ點から考へなければならぬ。

○ 第二に、運輸問題は、運賃の立場からではなく、運輸能力の點から考へなければならぬ。この事は當然第一の點から起つて来る。何故なら、收入が各交通業者の最大關心である限り、各交通業者が單一組織の下に於いて經營されるのを好まないからである。例へば、鐵道企業は鐵道を國家

のために役立てると云ふよりは寧ろ、鐵道收入を増加せしめんとする必要の方を強調するので、交通業の協定が旨く行かないのである。その結果、代表者が交通省に於いて強力な發言權を持つ鐵道は、他の交通機關が鐵道の競争者であると思ひ込んで、貨物——特に輕量の有利なクラスの貨物——の輸送は鐵道の權利を侵害するものであり、全力を以つて之に對抗すべきであると考へてゐる。

各交通業者の利益を主眼として運輸を營むのではなく、單一體に組織されて、運營されるならば、現在の幾多の困難を突破することが出来るだらう。言ふ迄もなく、現存の運輸能力を十分活用することが出来るだらう。何故なら、各交通業者間並に各産業部門内の各企業者間に競争があれば、運輸能力は十分利用されず無駄が自ら生ずるからである。之は、現在の状態に於いては許されざる贅澤である。單一組織があれば、一定時に於ける目的に最も有利な交通機關を運輸管理者は選ぶことが出来る。又彼等は、例へば敵の爆撃等に依つて突然利用出来なくなつた交通機關に別

の交通機關を即刻に代用して輸送力供給に著しく融通性を與へることが出来る。現在では、一鐵道が障害を受けると、鐵道は緊急貨物をたゞ自己の損失でトラック輸送を行ふのである。又單一組織になると、今迄競争によつて培はれた營業政策、例へば低額運費に依る旅客誘致策の如き割引運費に依る不利な輸送は廢止されることになる。

運輸問題を全體的に觀ること、收入よりは寧ろ實質的に考へることは刻下の急務であるが、貨物輸送の現在の障害を除去するには別の方法がある。この方法の一は、運輸に割當制度の原理を應用することである。原料とか船腹のやうに、運輸が巧妙な順位制度に従つて割當をしてはならないと云ふ理由は存在しない。所が、政府はかゝる急進的な行爲を非常に怖れてゐるので、國內運輸に順位制度を採用するのを尻込みしてゐる。輸送機關が餘り重要ならざる又は不必要な目的のためにすら利用されてゐるので、軍需産業に於ける生産が原料不足で中止せざるを得ない結果が生ずると云ふ警告にのみ政府は頼つてゐる。國民は鐵道に

依る不必要な旅行の取止め及重要目的のためにのみ家用車を使用することを再三再四注意されてゐる。若し鐵道及道路に依る旅客が一日でも彼等の旅行を中止するならば、この試験に依つて著しい輸送量が浮いて來ないと誰が云へようか。輸送力は、現在甚だ不足してゐるから、我々は政府の警告にのみ最早頼つてはゐられない。他の稀少性商品と同様に、順位の尺度に依つて運輸の割當てを行はねばならぬ。

○

又道路運輸等の國內的能率を改善すべき必要がある。多數のトラックは陸海軍に徵發されたから、一般運輸に利用されてゐる總數は、現在では大戦突發當時より減少してゐる。が故に、現存のトラックを出来る限り利用し、又適當な修繕工場を利用せしむべき理由が生じて來る。併し乍ら、これ等のトラックは毎日手一杯の仕事をしてゐると言ふことが出来るだらうか、果して搭載能力まで積荷されてゐるだらうか。又必要な修繕を出来る丈早く施して運輸に従

事せしめてゐるだらうか。この質問に肯定的な答をなす人があるとすれば、その人は恐らく圖々しい人である。何故なら、ロンドンで暮らしてゐる人は誰でも、各新聞社及各百貨店の配達用有蓋トラック群には、荷物が半分しか積まれてゐないこと、町を走るトラックには空車が可成あること、又その他に車輛主の車庫で何日も居睡りをしてゐるトラックが多いのを見ることが出来るからである。尠くとも部分的ではあるが、プール制度も一つの解決法である。巧妙なプール制度が今次大戦前に作られたが、その利用を妨害したのは個人主義的な利潤追求であらう。

○

運輸の困難は、又運河制度を十分活用し得るならば、ある程度迄緩和されることにならう。運河に依る運輸が平時には不利であると云ふ理由で、この運輸を無視することは出来ない。運河輸送は實際のろく／＼してゐる。併し乍ら輸送を急がない嵩張つた貨物には全く適してゐる。事實、若し運河を十分利用し得るならば、運河輸送は或る程度迄現

在の鐵道輸送の幅轆を緩和することが出来るであらう。

最後に、港灣に於ける運輸にも改善すべき點が多くある。運送すべき手筈を整へてゐた貨物が到着しないとか、早く積荷されないとか、貨物の陸揚げが勞働力の不足とか又は勞働者の罷業とか、鐵道貨車の未着及發送狀の不着等と云ふ理由で船舶が港灣で不必要な停船をしてゐるならば、この事實は、英國の輸入能力の減少を考へると、全く恕し難いことである。時には空襲に依る破壊の危険がないとも限らないから、輸入品を安全な貯藏所又は貨物の届先地へ迅速に分散せしむべき必要がある。

○

生産増加の強調は、不幸にして物資の迅速なる輸送と云ふ同程度の重要性を世人の注意から奪つた結果を導いた。若し生産工場が總べてフル・スピードで活動すべきだとすれば、運送を不必要に待つことなく原料を速かに取得して製品の引き渡しが出来ようでなければならぬ。戦争遂行に於ける運輸の重要性は十分認識されねばならない。

英國に於ける全交通利便を十分利用し得るためには、運輸問題を全體的な立場から觀なければならぬ。鐵道又は道路に依る旅客及貨物の不必要な移動は、重要な輸送に對し餘裕を作り出すために中止されねばならない。事實、英國は輸送の混亂を緩和し、重要な輸送のみを認めるやうにしなければならぬ。然らずんば、英國の戰爭完遂努力は、交通混亂に依つて水泡に歸してしまふであらう。

英國には交通省が儼存してゐるが、積極的行政部門としての意義はなく、むしろ政治家の養成所の如き觀を呈してゐる。併し乍ら、現在の交通大臣は、過去十年間の交通大臣の誰人にも優る能力と勢力を持つてゐるし、又現大臣には大きな仕事の機會が與へられてゐると言つてよいのである。

x
x
x
x

若葉吟社詠草

秋出水我が家へ旅に運ぶ筆
捨てられて萎れて橋の月見草
夏の夜のはや曉け近し暮の主客
歸る友の上布揺れ行く夏の宵
風晴や瀧を見に行く泊り客
讀み飽いて月の戸あくる夜長かな
夜道行く我に鳴子の空音哉
短か夜を戦地の兄の噂さかな
潮近き砂丘に揺れて月見草
露路裏の糸瓜可笑しく間借哉
笛涼し餘韻も更けて月の庵
芋焼いて夜業戻りを母待てり
引く度に番小屋揺るゝ鳴子哉

淺茅 如水 靜如 玉葉 同 翠山 同 農馬 同 露邨 同 野狐禪 同